

茎永の宝満神社のお田植え祭りと並んで、下中八幡神社でも毎年 3 月にお田植祭が行われています。種子島でお田植祭が伝承されているのは、この 2 ヶ所だけです。

祭は、まず社人による夜明け前のシュエイ（潮井：海砂をタマシダや竹の笹で包んだもので、魔よけや神域を清めるために使う）取りから始まります。その後、神社で神事が行われ、お田植となります。お田植は、神社の南方に広がる田の中にある古墳のような形をした森山に隣接する御神田（オセマチ）で行われます。お田植の前には、ガマオイジョウ姿（老人が神の化身「ガマガエル」となった姿）の社人が歌う田植え歌に合わせ、社人オイジョウがお田植舞を奉納します。お田植は、昔は最初男だけで植え、その後男女で植えるのがしきたりであったといわれていますが、現在は男だけで行われています。そしてお田植が終わると、参加者全員が森山の端の平らな場所に集まり、直会（ナオライ）が行われ、めでた節が歌われます。

この付近の字に市ノ坪という地名があることから、条里制の施行が推察され、また周辺に弥生時代の遺跡が広がることから、この地は古くから稲作と深い関わりがあったことがうかがえます。



森山と御神田（オセマチ）